

## 芦別白光舎 令和元年度 事業報告書

### 1. 総括

障害の有無等に制限のない社会事業授産施設として、就職の困難な利用者の受入れに取り組み、その役割を果たすため福祉事務所との連携を強化し、保護世帯利用者の受入れ、利用障がい者の支援に努めてまいりました。

また、基準該当就労支援 B 型施設としての利用者の受入れについては、施設利用希望者の増加に伴い、10月より定員を10名から20名に増員し、就労希望の障がい者の受入れにも対応してまいりました結果、3月末のB型支援利用者は17名となり、事業授産利用者33名と合わせて合計50名が就労しています。

「働く・暮す」の支援の充実については、福祉施策と労働施策の両面にわたり積極的に取り組み、高工賃の支給、個人の体力等に合わせた就労日・時間を設定し、環境作りを整備してまいりました。

さらに、4月からは生活困窮者への救済事業として、北海道社会福祉協議会と連携し、「安心サポート事業」開始し、相談支援、緊急対応、経済的援助等、制度の狭間の対応、支援も実施し、地域の相談窓口として見守りの目を充実させております。

作業の安定化、作業効率の向上については、今年度もリネンサプライ、ユニホームクリーニングが良好な成果を出していますが、そのために更に工場が狭隘となり、保管場所確保のため、海上コンテナ3基を設置し対応いたしました。

作業量の増加により、懸念されていた乾燥機不足については、廃業したクリーニング工場より2基購入し、さらには、中古機で格安のシーツフォルダー、シーツローラーも購入し作業の効率化を図りました。

ホームクリーニングにおいては、年々利用者の作業能力が低下するなか、仕上がりの均一化と効率化を図るため、中古ではありますが、ブラウス人体プレス機を購入いたしました。加えて、ドライ溶剤費用の削減を図るため、中古のドライ溶剤回収タンブラーも購入し、軽費の節減を図りました。

資材置き場となっている海上コンテナには消防用設備が未設置だったため、新たに設備し防災の充実に努めました。

サービスの安定提供につきましては、授産事業作業量の確保のため、リネン、ユニホーム業務を拡大したことにより、安定した工賃支給につなげることが出来ました。また、利用者のニーズに応えるため個別面談を実施し、利用者の安心・安全な生活の実現に向けて、生活指導、家庭訪問等も随時必要に応じて実施いたしました。2月ころより世界的に拡大した新型コロナウイルスの影響により、3月のリネン関係は大幅に落ち込んでおり、今後課題を残した状況となっております。

具体的な運営状況は以下のとおりです。

## 2. 施設利用者状況(令和2年3月31日現在)

区 分	定員	利用種別	人数	備 考
事業授産	30人	低所得者 保護世帯 うち(知的障がい) (身体障がい) (精神疾患) (重複障がい) (ひとり親) (その他)	23人 11人 7人 1人 2人 1人 3人 19人	計33人     (知的・身障)
就労継続 B型支援 (基準該当)	20人	うち(知的障がい) (身体障がい) (精神疾患) (特定疾患) (重複障がい)	8人 2人 3人 1人 3人	計17人    (知的・身障2名)(知的・精神1名)
合 計	50人		50人	

## 3. 経営状況

授産事業につきましては、人口減によるホームクリーニング部門の売上減が懸念されるなか、ユニホーム、リネンサプライ関係が好調で新規顧客も増えており、順調に売上を伸ばすことができました。また、ベアリング部門については、利用者の減員等により売上減となりましたが、全体的には前年度対比14,187千円の増と大幅に売上を伸ばすことができました。

さらに、措置費収入は利用者増と基準額の改定により263千円の増収となり、自立支援費も14千円と少額ではありますが増額となり、全体では、15,752千円の増額で、収入合計金額は192,077千円で大幅な売上増となりました。

一方、経費に於いては作業量の増加により人件費が増額となりましたが、経費合計は180,724千円で11,352千円の収支差額を出すことが出来ました。

また、本部会計より4,500千円の繰り入れを行い、老朽化したクリーニング機器の計画的な更新、さらには緊急時に備えるために8,200千円の積立を実施いたしました。

収益事業につきましては、清掃部門が1,451千円の増額となりましたが、経費に於いても1,722千円の増額となっており、収支差額は前年度とほぼ同額の5,131千円となったため、5,100千円を本部会計に繰り入れております。

売店部門は顧客の減少により、病院売店が前年度対比マイナス1,154千円、市役所売店がマイナス1,275千円の減額となりました。合計売上は2,430千円減

額の 23,722 千円で、収支差額は 621 千円となり、厳しい運営状況ではありますが、500 千円を本部会計に繰り入れする事ができました。

結果、授産事業、収益事業、共に概ね運営は順調です。

#### 4. 各種事業活動結果

年・月・日	事業活動内容	摘要
	<b>【諸会議の開催】</b>	
随時	理事会の開催	年間 6 回
随時	評議員会の開催	年間 3 回
毎月	職員会議の開催	
毎日	職員ミーティング	
	<b>【監査】</b>	
定期	巡回監査(さくら総合会計事務所)	年間 6 回
定期	監事監査	年間 4 回
定期	運営指導(空知総合振興局・書面監査)	
	<b>【親睦事業】</b>	
5 月 10 日	観桜会(アシントンホテル)	白友会
6 月 13 日	焼肉会(敷地内)	職員・利用者
9 月 1 日	ふれあい広場(みやもと公園)	自由参加
10 月 4 日	焼肉会(赤蔵)	職員・利用者
12 月 7 日	勤労者共済会クリスマスパーティ(都会館)	自由参加
12 月 13 日	忘年会(アシントンホテル)	白友会
1 月 25 日	新年会(スターライトホテル)	白光舎・白友会
2 月 5 日	雑煮会(食堂)	職員・利用者
	<b>【健康管理事業】</b>	
随時	第 1 回 健康診断	基準該当利用者
1 月 21 日	第 2 回 健康診断	職員・利用者
	<b>【避難訓練】</b>	
9 月 25 日	自然災害総合訓練(通報・避難・消火・救助)	職員・利用者
	<b>【福祉サービス事業】</b>	
随時	三者面談	
随時	個人面談	
随時	家庭訪問	
	<b>【研修・出張】</b>	
5 月 10 日	理事・監事改選手続きセミナー	日帰り
5 月 31 日	全国社会就労センター協議会 幹事会	1 泊 2 日
6 月 11 日	空知総合振興局 施設整備計画打合せ	日帰り(2 名)

6月19日	北海道社会就労センター協議会総会・研修会	1泊2日
6月20日	海上コンテナ(現物視察)	日帰り
7月3日	全国社会就労センター総合研究大会	2泊3日(2名)
7月11日	相談支援従事者研修(基礎研修)	1泊2日
7月22日	全国経営協セミナー	日帰り
7月30日	北海道庁 施設整備計画打合せ	日帰り(3名)
8月19日	北海道庁 施設整備計画経過報告	日帰り
9月3日	相談支援従事者研修	2泊3日
9月6日	商工会議所会頭(旭日小綬章受賞祝賀会)	日帰り
9月14日	リースキン代理店会議	1泊2日
9月18日	コミュニティソーシャルワーク実践者養成講習	1泊2日
10月8日	芦別市防火安全協会視察研修会	日帰り
10月10日	授産施設連絡協議会施設長及び職員研修会	1泊2日(2名)
10月18日	職員共済会永年勤続者表彰式	日帰り
10月30日	小型車両系建設機械資格取得	日帰り(2日間)
10月24日	相談支援員専門研修	1泊2日(2名)
11月6日	ユニホーム関係取引先挨拶廻り	日帰り(2名)
11月7日	相談支援従事者研修(初任者研修)	1泊2日
11月13日	有機溶剤作業主任者講習	1泊2日
11月14日	安全運転セミナー	日帰り
11月18日	職員共済会業務説明会	日帰り
11月21日	地域公益ステップアップ講座	日帰り
11月28日	身体障がい者福祉施設研修会	1泊2日
11月29日	ハラスメント防止セミナー	日帰り
12月6日	発達障害コミュニケーション指導者認定講習	1泊2日
12月10日	社会福祉法人役員・施設長研修	日帰り
1月23日	社会福祉施設見学(夕張市、岩見沢市)	日帰り(4名)
1月27日	相談支援従事者研修(現任研修)	2泊3日
1月30日	会計実務者決算、財務分析講座	日帰り
1月31日	空知総合振興局(施設整備関係打合せ)	日帰り(3名)
2月21日	障がい者就労支援セミナー	日帰り

注記 令和元年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する付属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。

## ケアハウスあしべつ 令和元年度 事業報告書

### 1 総括

ケアハウスあしべつは、平成 18 年 4 月に運営を開始してから 14 年が経過しました。当施設は、芦別市における高齢化の進行により単身生活に不安を抱える方々が増加している状況にあつて、高齢者の住まいとして市民のニーズに応えるべく、定員 50 人で事業展開しています。また、定員のうち 30 人については介護保険事業である特定施設入居者生活介護（介護予防を含む。）の指定を受け、入浴、排せつ、食事等の介護その他日常生活上のお世話をし、介護を要する入居者様への対応を行っています。

処遇面については、当施設基本理念『私たちは、入居者様一人ひとりを敬愛し、笑顔・思いやり・親切・丁寧・誠実・公平の姿勢で取り組み、信頼される施設を目指します。』のもと、入居者様やご家族様が安心できる施設づくりを目指し、入居者様のライフスタイルを尊重し、健康で安全なゆとりある生活ができるよう、個々のニーズに合った良質なサービスの提供に努めました。

経営面では、入居者様の死亡や持病の悪化等を理由とした退居が相次いだ影響で収入が大きく伸び悩んだことに加え、10 月からの消費税増税も重なり、大変厳しい 1 年となりました。空室対策についても、新規入居の申込みが年々減少傾向にあり、入居者様の確保が厳しい状況にあるなか、医療機関や居宅介護支援事業所と緊密に連携し、入居希望者の紹介の依頼や掘り起こしを進め、入居率の向上に努めました。

### 2 施設利用状況（ケアハウス全体/定員 50 人）

#### (1) 月別入居者数（月末在籍入居者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	7	7	7	8	8	8	8	9	9	9	10	10	8.3
女性	39	41	40	40	38	38	37	37	37	38	38	38	38.4
合計	46	48	47	48	46	46	45	46	46	47	48	48	46.7

【平均入居者数】 46.7 人（居室稼働率 93.4%）

#### (2) 月別入居・退居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	0	3	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	9
退居	2	1	1	0	2	0	2	0	0	0	0	1	9

#### (3) 入居者年齢別内訳（令和 2 年 3 月 31 日現在）

	～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90～94 歳	95 歳～	合計
男性	0	0	3	1	4	2	0	10
女性	0	0	3	8	9	13	5	38
合計	0	0	6	9	13	15	5	48
構成比	0.0%	0.0%	12.5%	18.8%	27.1%	31.2%	10.4%	100.0%

※最高年齢 101 歳（女性） 最低年齢 75 歳（男性） 平均年齢 87.6 歳

### 3 施設利用状況（特定施設入居者生活介護事業再掲/利用定員 30 人）

#### (1) 月別利用者数（月末在籍利用者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	3	3	3	4	4	4	4	5	5	5	6	6	4.3
女性	25	25	24	24	22	22	21	21	21	22	22	22	22.6
合計	28	28	27	28	26	26	25	26	26	27	28	28	26.9

【平均利用者数】 26.9 人（利用率 89.7%）

#### (2) 要介護度別内訳（令和 2 年 3 月 31 日現在）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	0	1	2	3	0	0	0	6
女性	1	3	8	7	1	2	0	22
合計	1	4	10	10	1	2	0	28
構成比	3.6%	14.3%	35.7%	35.7%	3.6%	7.1%	0.0%	100.0%

【平均要介護度】 1.5 ※要支援 1 及び要支援 2 は 0.375 として計算

### 4 経営状況

一般のケアハウス居室については 1 年を通して入居率が好調だった一方、特定施設入居生活介護（介護予防を含む。）居室については退居者が多く、入居者の定着が進まなかったこともあり、前年度と比較して収入が大幅に減少しました。

収入については、二つの大きな柱のうち、家賃や食費等に相当する利用料及び月初入居者数によって得られる北海道補助金を計上する『老人福祉事業収入』が前年度比 2,370 千円の減、介護利用者から別途徴収する介護支援料金を計上する『介護保険事業収入』が同 4,661 千円の減、合わせて同約 7,000 千円の減となりました。

支出については、大きな三つの柱のうち、『人件費支出』が定期昇給による自然増や退職者の後任者の先行雇用、退職金等で前年度比約 3,610 千円の増、『事務費支出』が最低賃金の引き上げや消費増税に伴う委託料等の増加により同約 392 千円の増、『事業費支出』が経費節減等の効果もあり同約 1,324 千円の減、合わせて同約 2,678 千円の増となりました。

結果として、その他の収入支出を含めた最終的な当期資金収支差額は△279 千円となりましたが、前期は 4,500 千円の積み立てを行ってなお 2,615 千円の資金収支差額を生むことができたことと比較すると、積み立てを行えていない当期は大変厳しい経営状況となりました。

### 5 主な行事

4月	茶話会（創立記念日）
5月	おやつ会（ホットケーキ）
6月	洋服販売会
7月	ジンギスカンパーティ
8月	流しそうめん
9月	敬老会、スイーツツアー（ほんだ菓子司）

10月	軽運動会、日帰り温泉旅行（東神楽町）、洋服販売会
11月	おやつ会（じゃがバター）
12月	おやつ会（フルーツあんみつ）、クリスマス会
1月	新年会
2月	節分豆まき
3月	ひな祭り

\*その他、毎月誕生会を実施した。

## 6 職員研修状況

関係機関が主催する次の研修会等に積極的に参加し、専門知識・技術の習得を通して、職員一人ひとりが柔軟かつ臨機応変に対応できる資質の向上に努めました。

対象職員	研修名	主催者
<外部研修> 看護職員 介護職員  栄養士 生活相談員  施設長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防対策研修（滝川市）</li> <li>・虐待防止実践研修（札幌市）</li> <li>・生活環境づくり研修（札幌市）</li> <li>・苦情クレーム対応セミナー（札幌市）</li> <li>・新任研修（札幌市）</li> <li>・虐待防止推進研修（札幌市）</li> <li>・リスクマネジメント研修（札幌市）</li> <li>・新任研修（札幌市）</li> <li>・初任者研修（札幌市）</li> <li>・新任研修（札幌市）</li> <li>・介護サービス事業者集団指導（岩見沢市）</li> <li>・雇用管理責任者講習（札幌市）</li> </ul>	滝川保健所 北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 北海道社会福祉協議会 軽費老人ホーム協議会 北海道社会福祉協議会 北海道 介護労働安定センター
<内部研修> 看護介護職員 全職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症発生時対応研修</li> <li>・身体拘束廃止研修</li> </ul>	感染症対策委員会 身体拘束廃止委員会

注記 令和元年度事業報告には、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する付属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していません。

